



気になるあいつ
わかぎるふ

双葉社

パワー全開!?

久しぶりに香港に行ってきた。2年ぶりくらいだろうか…。

7月の頭に「お祝い」という芝居をやっていたのだが、その芝居に友達のお嬢ちゃんが出てくれていた。ゲストと言いつつ、全ステージ出演したのでメンバーみたいなものだった。毎日一緒に飲んで帰ったりするのですっかり家族化してたこともあったのだが、うちの旦那といつの間にか香港行きを決めていたのである。

「もちろんお母さんも行くやんなあ？」と、突然旦那に言われた時には、「どこへ？」と聞き返す程度だった。しかし、その時点ではもうKちゃ

んは香港で何を買うか決めていたのだから、温度差30度という感じである。

「香港行くの？」と聞いた私に、旦那は「行けへんの？」と答えた。相変わらず思い込んだら一途というか、一直線しか歩けないというか…話飛ばしすぎやねんというか…ということでは私は香港旅行を手配することになった。(そうです、結局私が手配したんですよ。まったく！)

それにしても、香港は安くなった。昔は安いと言っても夏休み中だったら6万〜7万はしたものだ。それが7月の終わりに行ったのに旅費、ホテル代込み2泊3日で44000円である。中国への返還も終わり、ウイルス性の病気も流行り、すっかり人気がなくなったということらしい。旅行社のホームページを見てパクツアアを申し込んだのだが、人気NO1の韓国と比べたら閑古鳥が鳴いている感じだった。あ、韓国は今すごい人気ですね。ヨン様効果もあるのでしようか…。

しかし、そんな気まぐれな日本人のブームとは関係なく、香港は今ままでおり機能しているのだから、考えてみればお得な旅行でもあった。

Kちゃんは、学生の頃から憧れていたというカルティエの時計をなんと関西空港で買った。

「まだ日本出てへんやん！」

と突っ込んだが、彼女はその後香港で買うわ、買うわの大散財。「使う！」と決めてきた金離れのよさは、いつそ潔いくらいだった。

ところで、うちの旦那はあまり買物に興味もない。「芝居の衣装に使える」などと言い、金ラメのスーツなんか買うことはあるのだが、自分の着るものや、ブランド物には興味なしである。

そんな彼が今回は珍しく薬を買いたがった。なんでも蟻の粉末の入ってる漢方だそうで、体にメチャクチャいい強壮剤らしかった。どこでそんなものを知ったのか分らないが、ともかく、

「蟻はな、体の数百倍の大きさの荷物を運んで、一日中動くパワーがあるねんで。そら体にええと思えへん？」

と力説しつつ、街中の薬局に入っては「有没有蟻？」という紙を見せて聞きまわった。

「そんなもん、ほんまに有るの？」

と、Kちゃんと私は疑っていたが、なんとさすがは漢方の国である。3軒くらい回ったら「蟻王」という薬が本当にあったのである。しかも粉末をカプセルに入れてあるという、普通に飲める感じの薬だった。私はまた、蟻そのものとかが入ってるのかと思って少々引いていたのだが……。

写真はその薬の中に入っていた説明書である。400倍という字を持ち上げている、働き蟻の可愛いイラストだ。おそらく蟻は自分の体の400倍もの重さがあっても、エサを運んでいけるパワーがありますよ、という絵なのだと思う。これから中国語の辞典で調べるところなのでよ

く分らないが、きっとそうだろう。

しかし…漢方薬恐るべしではないか。蟻を見て、

「おお、これはパワーのある生き物だ。食べたら体によさそうだ」

と思った人がいるということである。大阪人に言わせたら、

「ようそんな暇な事考えるわ」

ということだが、さすがというか、素晴らしい着眼点だ。

で、効き目はどうかと旦那に聞くと、

「うん、パワー全開やで。俺、久しぶりに朝立ちしたわ！」

と、目を丸くして言い放った。おい！してなかつたんかいっ、と

いう突っ込みを入れる間もなく、奴はまた蟻について語っていた。どう

やら思い込みパワーも増したようだ。

【著者略歴】

わかぎあふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より作家・中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーⅡ」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇店」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっこのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『太りすぎの雲』『イブの抜け穴』など多数。
